

あるとき、で、く、のい、によくかかれているすべてをえたがおりました。しかし、そのはあまりにもがく、それをとちったらいかがりませんでした。にはをげるも、にべるも、をにごすも、いをげるもいりませんでした。はかにとされたくもありました。ほっちでいるのはとてもしいことだからです。

はどうしたらよいのでしょうか。はをろうといました。さいけれどきれいなを。おそらくそれがえなのだろうといました。「はをでて、にいつもかがあることをじていよう。ももせにらせるだろう。だって、ほっちでいるのはとてもしいことだから。」

がをると、すぐさましいとっていたりのがわりました。はをぜ、きしめ、しかけましたが、はまったくしませんでした。それはたいままで、おしにかしてくれることはありませんでした。がにをしてやっても、はならず、ののままでした。はまったくしませんでした。どうしてはできないのだろう。そこではさらにをり、そして、、、、、、そしてのをみました。しかし、はすべてじでした。のもありませんでした。はしく、ほっちでした。

はしくてのわりにをろうといました。しいをさせるです。にをやり、やをえ、をかせてやろう。これなら、はせだろう。そうすればももするだろう。だって、ほっちでいるのはしいことだから。

がをると、すぐさましいとっていたりのがわれました。はでのりてりをめしました。でも、はだにしませんでした。とにろうとも、きについてこようともしませんでした。はがしてやるののにしかしませんでした。をやるとし、をやらないとれてしまいました。のすべてをぎたい、とてものにいて、はなものではありませんでした。にはにももってしてやりたいことがありました。だって、ほっちでいることはとてもしいことだから。そこではあらゆるのを、あらゆるさでりました。、、、プランテーション、そしてさい。しかし、どれもとのとじようにしかしませんでした。そして、またはほっちで、しくしていました。

はえあぐねました。どうしたらよいのだろう。そうだ、をつくろう。どんながいいだろうか。はどうだろう。そうだ、いつもにいてくれるかわいいがいいだろう。がをにれていくと、はんだり、ねたり、ったりしながらにってくれるだろう。がというよりはですからおにしてくると、はとてもんで、びくようにえてくれるだろう。ももせなことだろう。だってほっちでいるのはとてもしいことだから。

がをると、すぐさましいとっていたりのがわれました。はのをし、えさをやり、をえ、やさしくでてやりました。また、にり、ってやり、にもれてきました。しかし、のはどこにいてもいものにはかなわわないことがかりました。はとにんでやっても、がくにはどこにでもれてやっても、がもしてくれられないことをしくいました。はがしてやったことをできず、がをえんでいるのか、をめているのか、どれだけのためにしているかもできないので、ののにはなれませんでした。しかし、これはがんだことです。はののもりました。、、、、でもすべてでした。どのもをすることはできませんでした。こんなにほっちでいるのはとてもしいことでした。

はりんでえました。そして、ののは、をしめ、としてくれ、のようなで、とじし、してくる、にているパートナーでなければならないことにづ

きました。

パートナー□□□の□□□それなら、その□は□□□の□にいて、□□□が□えるものを□□し、□□し、その□わりにすべてを□えてくれる□でなければなりません。□□□は□し、□されたくもあったのです。これなら、□□□もその□も□せだろう。だって、□□ほっちでいるのはとても□しいことだから。

そうして□□□は□を□□することを□えました。□なら□□の□□になってくれる□□なら□□□のよう□な□になれる、ただ□けが□□なだけだ。これなら□□とも□せに□らせるだろう。だって□□ほっちでいるのはとても□しいことだから。しかし、□□が□せに□らすには、□にまず□□□なしで、□□ほっちで□しい□□をしてもらわなければなりません。

□□□は□□□を□って、□くに□を□りました。□は□りの□、□□、□、□、□、□、□、そして□しいもので□ち□れコンピュータやフットボールまであるこの□□で□せで、□の□□□も□じなかったため、この□□すべてを□った□□□がいることを□じることはできませんでした。□□、□□□はあいかわら□ず□しく、□□ほっちでした。しかし□は□を□□し、□し、□ち□み、「□□ほっちでいるのはとても□しいことだから、□□□□なら□せに□らせる」と□った□□□がいることを□りませんでした。

□はコンピュータやフットボールに□るまであらゆるものを□えられて□□し、□□□の□□に□づきませんでした。そんな□がどうして□□□を□し□し、□り□い、□□くなり、□し、□□になり、「□なしで□□ほっちでいるのはとても□しいことだから、□□□□に□せに□らそう」と□□□□に□ってあげることができたでしょうか。

はくにあるものしからず、りのにってし、りとじことをし、りがするものをしがり、のをすることなく、コンピュータやフットボールのプレゼントをにしています。ぼっちのしいがいることをどうしてることができたでしょうか。

しかし、はがく、いつもをしめていました。がした、はをって、のにかにかにびかけました。はがかをしめていることにづきましたが、「なしでぼっちでいるのはとてもしいことだから、にせにらそう」とびかけているのがであることにはづきません。

がもうをると、はをじました。そしてはののことをにき、「なしで、ぼっちでいるのはとてもしいことだからにらすとせだろうなあ」とえるようになりました。がさらにもうをると、はにれたのがあること、そのでがをっていて、そこでしかはせにらせないだろうということをじました。だって、ぼっちでいるのはとてもしいことだから…。

しかし、そのはにあるのだろう。どうしたらできるのだろう。どのをけばよいのだろう。はにれ、してにいかけました。どうしたらにえるのだろう。はのりをにじけ、れません。はとながにきいて、べることもできません。これはにしているものがつけられず、ぼっちでしいにこることです。

しかし、私がのように、で、で、く、のい、のいになるためには、のりではではありませんでした。はでをこすことをばねばなりませんでした。

そこで、は、ひそかに、みに、やさしく、をにつけないように、をもんなのの「ゾハールの」にき、なへのきをえました。はすぐにでも、にいい、「ほっちでいるのはとてもいいことだからにせにらそう」とえたいで「ゾハールの」をびました。

しかし、のりにはいいがあり、くのりがをいい、とにせにらすのをします。はし、はのかかったのにあるにれてしまいました。はく、りはく、もしません。どうなるのでしょうか。ほっちでいるのはいいけれど、どうしたらにせにらせるのでしょうか。

もしてめた、はいつものりをしました。はそれにまされて、もうにし、なんとしてもりをねけのけようとみました。をり、にし、のをり、にいたい。

しかし、がし、とにづけばづくほど、りもさらにく、さらにく、さらにくくなり、なくをおびえさせます。

しかし、はそのに、たくましく、なくなっていく。はあらゆるをでび、にしかできないものをします。しされるにはをさらにするようになり、のをさらにくじ、とにらすことをこののよりもむようになり、のをたくなります。このでありとあらゆるものをえられていても、なしではしく、とにいることがのせだから。

そうして、なしではもうえられなくなった、のがき、ののがのにけてきていました。「ほっちでいるのはとてもしいことだから、にせにらそう。」

それからはしい、かりえるになり、のにはそれのすばらしいびはにありませんでした。はにいるととてもせで、ほっちでいることがどれほどしいことだったかをいすことはありませんでした。

がせになれるのはをることであり、それこそがもなことであり、なしではとてもしいだろうとわれたはブネイバルーフにごください。